

WATERLESS CURRENT 2003 年 3 月号

PRINT POINT 社は水なし UV をものにしていく

オーストラリアの先導的な水なし印刷業者の 1 社は、このたび、UV 仕様の新型 B 2・6 色印刷機(58×74cm)を導入し大きく前進を図っている。WPA への長年の加盟歴を誇る Brisbane 市の PRINT POINT 社は 2001 年オーストラリアで初めての W2 インキの試験印刷を行ったが、常に新しい技術の先端に取り組んでいた。

同社は更なる生産性向上、顧客満足促進を図るべく、一歩進めた水なし印刷システムをものにしていく。広告代理店のデザイナー、企業関係、政府機関から仕事を引っ張ってきている。Print Point 社の専務、Alan Rhodes は直接、水あり業者と競り合っているが、自社の印刷に断固、価格上乗せをしないという。

水なし UV の利点により、多様な幅広い素材へ印刷展開できるようになった。プラスチック、1mm までの厚みの難しい材料がこなせ、パッケージングや POP のような新印刷分野に食込めた。



世界水なし印刷会議は WPA、ヨーロッパの EWPA、日本 WPA の共催で初めての試みとして開催される。日本とヨーロッパの印刷業者の先導で会議が開催されるが、水なし印刷の生産性の高さ、高い環境対応は印刷発注者からも認知されよう。この重要な会議の席は 150 席用意されているが、先着申込み順となっている。オンライン申込み先は www.waterless.org である。日本 W P A の H P ででも受け付けさせていただく。



オーストラリアの Print Point 社の武器とは、この UV 水なし印刷機とその取り巻く技術利点で、顧客には大変受けている。

UV により次工程へ直ぐに回せるため、迅速短納期を顧客に提供できるようになり、サービス向上が図れる。スプレーパウダー、それに従来の乾燥装置で見られる高熱を除去できる。スプレーパウダーから起因する厄介な一連のトラブルを、我々は何とかして避けたいと思ったものか。

もう一つの利点として、UVインキの組成は溶剤を含んでいず、水なしの環境にやさしい側面に付加してくれる環境ボーナスとなってくれる。インキの光沢はあり、耐磨性、耐湿性、耐薬品性を備えている。

UV水なしインキはフランスのCODIMAG社のViva 34などのラベル輪転機では長い間使われてきた。枚葉UV水なし印刷の進展はインキの制約と水なし版の互換性の不安で止まっていた。しかし、これは、Print Point社にとっては障害でもない。3社のUVインキ製品を試験したが、それなりの成果が見えてくれた。同社のニーズに合う製品を探し出している。

Print Point社のオペレーターによれば、Nordson UVシステムをつけた新型MAN ROLAND 500は印刷機ではなく、武器と呼んでいて、少々厄介な仕事でもこなしてくれるのだ。Alan Rhodesは吹き込み成型、イン・モールド用のラベルなど、パッケージングの仕事が増えると見ている。「我々は汎用性を望むのでなく、顧客の革新的ソリューションに応えられる、必要性を追求していく。」と、Alanは言う。

グリーン化への義務

まだ、8年の若い組織として、水なし印刷へ踏み出したPrint Point社の意思決定とは、印刷界の中でも環境への責任感を一層に際立たせたいとの意識からである。「近い将来、全産業がこの方向へ向かうだろうが、我々は地球環境の重要性からだけでなく、わが社の向かうべき方向として捕らえている。」と、Alanは言う。

印刷界が旧態の窮地に陥っていたので、Print Point社は真っ白な状態からスタートし、差別化を図って、印刷問題解決の高度情報提供者になろうとしている。むろん、水なし印刷を囁ませての上である。

Classic Colors社からの水なしUVの利点

英国、Reading州のClassic Colours社のDavid Greyに水なしUV印刷の利点を聞いてみた。彼の発言の要旨である。スプレーパウダーを使わないと、機械の清掃時間が短縮でき、版の損傷、不十分散布によるヤレ、PP工程へのための粉の除去作業、さらに裏面印刷時のブランケットへの粉残り除去、などを節減できる。

UVの利点としては次の通りである。

インキの中にVOCがなく、100%信頼のおけるものだ。必要に応じて中間乾燥を入れると、トラッピングは改善される。水なしUV印刷では乳化が起きず、プラスチック、フォイルの印刷には理想的である。水なしUVでは水ありのような高いドットゲイン値は出ない。

インキの流動性は良好(インキ・アジテーション装置は不要)。

UVインキは臭い、毒性も至って弱いものである。新しい側面もある。

UVインキは普通インキよりUVニスとの相性が良く、光沢が出る。

迅速乾燥、スプレーパウダー不要により、高いUVインキ代を取り返してくれよう。インキ代は通常インキの4倍はしている。

金属含有 UV インキは通常インキと同じであり、普通、ある制限下でごく少量しか使わない。

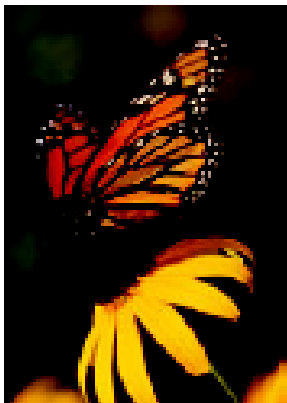
Nevada Classicure UV 水なしインキはワックス、とかシリコンなし、あるいはワックス混入、シリコン混入で使える。我々の水なしインキにレデューサーを少量入れると、水あり印刷にも使え、そのドットゲインは 5-10%に収まってくれることが分かった。

AGFA が水なし印刷特許

我々の米国特許庁への特許調査活動で判明したが、2003年6月10日付・特許番号 6,576,399 「水なしオフセット版用の放射線感知材料」を提出している。文献によると、赤外線感知の版で、基材、プライマー層、IR 吸収層、シリコン層となっている。さらに、画像は残り、IR 露光除去層は水または、水溶液で洗い落とされると記述されている。

WPA 会員技術シートはオンラインで注文できる

会員は特性の水なし技術シートをオンライン www.waterless.org で注文できる。水なし印刷物での WPA の商標登録ロゴの使用度が上がってきて、このテーマに絞ったチラシは "Waterless Printing, Naturally." という環境メッセージを表現するには大変いい方法である。このチラシは会員用でロゴ入り、内容をカスタマイズできる。画像、イラスト、文字、ロゴは CD-ROM に書き込まれている。Presstek DI バージョン以外はスクリーン線数、300線としている。A4 サイズであるが、Quark Xpress を使うと、米国サイズ 8-1/2 x 11 に変換できる。詳しくは WPA の HP を見ていただきたい。



おおかばまだらについてご存知

WPA のロゴで使っているおおかばまだらは昆虫界の王様であるのをご存知？ 彼らは小動物ではあるが、驚くべきものなのだ。最初は小さな卵であるが、毛虫になり、さなぎを経て最後は、美しい蝶々に変態する。彼らは変身し、冬の間は温暖なところへ遠距離を旅立つ。驚くに値するが、この蝶々だけが周遊旅行をしてくれる。冬の蝶々は緩慢で生殖はしない。春になると夏のホームへ帰り、道すがら子供を生む。その子孫は出発点に戻ってくる。

SEACOURT 社はバタフライロゴを使って有利さを引き出し

先月の Current で掲載した記事の結末として、Seacourt 社の Roy Williams は水なしで印刷するかなりのものに、このロゴを使っていると伝えてくれ勇気付けられた。Roy Williams は言う、「事実、わが営業部隊はロゴを顧客に勧め、環境への約束を示しなさいと押ししている。蝶々をあしらったものであるが、顧客が仕事に結び付けられるデザインと見出しをつけた冊子を作っている。バタフライロゴの一層の普及に加え、Seacourt 社は有力客向けに

環境セミナーを開催している。今年も3月半ば、ロンドンの国会議事堂で開催される。」
Seacourt社は1997年5月から2003年6月まで前環境大臣を務めたMichael Meacher MPの登壇願い、この催しの取り仕切りをしてもらっている。このセミナーは国際的視点の環境問題を語ってくれる講師をよんでいる。それに続き、国内の問題と来るべき法制につき講演がある。最後に、印刷工業の講師が、水なし印刷と環境への負荷削減効果を強調してくれる。この運動推進するSeacourt社のRoy Williamsの感謝をささげたい。

英国のLITHO SUPPLIES社が東レ水なし版の販売へ

英国のLITHO SUPPLIES社が東レの水なし版の販売に調印した。以前は、英国でのこの版の販売はToray Europeから直販されていた。LITHO SUPPLIES社のGerry Mulvaneyによると、「我々は東レ版をプレミア視して市場に売るつもりはない。我々が信じる利点とは取引の糸口とみなし、つまり、安くなるということだ。」LITHO SUPPLIES社6500社以上の顧客を持つが、Mulvaneyは言う。「最初は少数の方に焦点を当て...、小規模のworkshop、デモとセミナーを開催していく。大きなインパクトを生み出すのに2年かかるであろう。」

できごと

オーストラリアで水なしUV枚葉印刷をこなす、他方の1社、NSW州のAlexandriaのGraphics Plus社、Phil Derheyはプラスチック材の印刷に特化。オランダで、バタフライロゴを顧客に勧めようとしている会社、Gilze市のJansen Drukkerijen社、Toon Verbraak社長に歓迎を申し上げたい。

J.L.Lennard社のNorm Fizellの報告では、オーストラリア、メルボルン市の会社で始めて、水なしでヨーグルトとアイスクリームの箱を印刷するようになった。

Willy Smeets氏、斬新な水なし版現像装置の発明者であるが、彼の方法を主要な機械メーカーがはや、見学したと言っている。



このスパイもどき写真は一体何たる機会と想像を掻き立てる。これはSequa APS水なし2ピース美装製缶機である。飲料缶印刷技術で驚くほどの飛躍をしていて、事実、これを印刷機と呼びたくなるものだ。このユーザー名は明かせない、と言うのも、Sequa APS顧客は水なし印刷で大変競争力をつけている。これは驚くことではない。とにかく、Sequaの水なしAPS systemを見ると、飲料缶分野で大変大きな道をつけてきている。

作成 WPA・アーサー・ラフィーバー
日本語作成 日本WPA・五百旗頭忠男
平成16年3月19日